

「自動車整備技術の高度化検討会」における今後の検討事項について（案）

1. 背景

- 近年、自動車の安全・環境性能の向上に伴い、電子制御による新技術の利用が広まっている。この優れた性能を維持するためには、適切な点検整備を行うことが重要であり、スキャンツールの活用促進や整備要員の技能向上等の人材育成が求められている。
- このため、昨年度から「自動車整備技術の高度化検討会」を開催し、本年7月に、乗用車用の汎用スキャンツールの標準仕様等を取りまとめたところである。
- また、このとりまとめにおいては、整備技術の高度化に向けて今後解決すべき課題も整理したことから、これらの課題について、同検討会を再開し、その方向性について検討を行うこととする。

2. 検討事項

【環境整備関係】

(1) 整備事業のIT化、ネットワーク化の推進

新技術の採用に伴う点検整備の高度化に的確に対応する上で、整備事業場のIT化は不可欠であり、それを活用したインターネットによる点検整備情報の取得が必要となっている。このため、自動車メーカーから提供される点検整備情報のネットワーク化を推進し、スキャンツールによる情報を整備事業者が幅広く共有していく方策を検討する。また、ネットワーク化や検査の高度化等を踏まえ、整備現場が対応できるIT環境の整備を推進する方策も検討する。

(2) 国際化への対応

自動車及び点検整備機器の輸出入等の状況を踏まえ、点検整備情報等の提供方法等、国際的な視点での対応を検討する。

(3) その他

【人材育成関係】

(1) 一級整備士資格者の活用

本来、新技術に対応できる技能を有している一級整備士を継続的に養成していくことが必要と考えられることから、その人材を確保するため、資格取得の優位性等について検討する。

(2) 新技術に対応した整備士資格制度のあり方

各種の整備士が最新技術を導入した自動車の整備作業に関してどのような役割を担うかについて、整備現場の状況や今後の最新技術の動向等を踏まえ検討する。

3. 開催スケジュール

10月9日（第5回）に検討会を再開し、年度内を目途に計3～4回程度開催して報告書をまとめる。

4. その他

本検討会は原則公開とし、頭撮りが可能とする。また、議事概要・資料は会議終了後原則としてホームページに公開する。